

文化や言語の「壁」？

国内で急増する、外国につながる子供たち。
学校生活の中で、言語や文化の见えない「壁」を感じて苦しんでいるかもしれません。

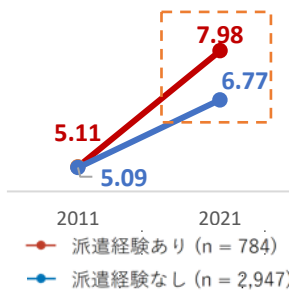


「壁」を越える先生？

海外の日本人学校での指導経験があると、多文化・多言語環境下での指導力が伸びるというエビデンスがあります。

[児童生徒の文化的な多様性に適応させた指導をする能力がある]

・教師本人へのアンケート



・学校管理職へのアンケート



- 派遣経験がある教師、派遣経験がない教師に対して、設問についての自己認識を10段階[1(あてはまらない)~10(あてはまる)]で、現在(2021年度)と10年前(2011年度)の状況を調査したもの。
- 10年前と現在の回答の差分は1%水準で統計的に有意であることが示された。
- 学校管理職に対し、現在勤務する学校に所属する派遣経験がある教師について、派遣経験のない同年代の教師と比較してどの程度あてはまるか尋ねた結果を集計したもの。

出典：「在外教育施設に派遣された教師に係る派遣効果に関する調査・分析」
※ 文部科学省と総務省が共同で実施。委託先は三菱UFJリサーチ&コンサルティング

日本人学校へ先生を派遣しませんか？

文部科学省では、海外の日本人学校等に通う約3万人の子供たちの国内と同等の学びを保障するため、国内の先生を海外に派遣しています（原則2年、家族同伴可）。
海外での多様なニーズに応える教育実践などの、国内では得がたい経験は、指導力の向上につながります。



先生も感じたことあるよ「壁」



派遣を経験した先生の声

海外で、母語でない環境で学ぶことがいかに大変か体感した。

帰国後は、日本で頑張っている外国につながりのある子供たちを理解できるようになった。

文化や言語の「壁」を越える先生
一緒に増やしませんか？

詳細は文部科学省
ホームページへ
「在外教育施設派遣教員」



海外の日本人学校の子供の学びに向き合った経験は、先生の資質・能力の向上にも繋がることがわかりました！

出典：「在外教育施設に派遣された教師に係る派遣効果に関する調査・分析」
※ 文部科学省と総務省が共同で実施。委託先は三菱UFJリサーチ&コンサルティング



資質・能力向上

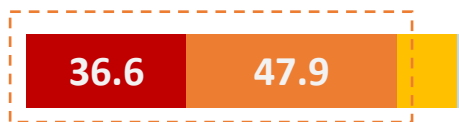
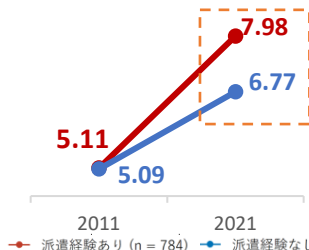
1 多文化・多言語環境における指導能力

海外で母語でない環境で学び、児童生徒の文化的な多様性に適応させた指導をする能力がある

マイノリティとして「壁」にぶつかった経験、日本以外で生まれ育った子供など多様なバックグラウンドを持つ子供たちに触れた経験は、多文化・多言語環境における指導能力の伸びに繋がります。

・教師本人へのアンケート

・学校管理職へのアンケート



■ よくあてはまる ■ まああてはまる
■ 変わらない ■ あまりあてはまらない
■ あてはまらない

- ・派遣経験がある教師、派遣経験がない教師に対して、設問についての自己認識を10段階[1(あてはまらない)～10(あてはまる)]で、現在(2021年度)と10年前(2011年度)の状況を調査した。
- ・10年前と現在の回答の差分は1水準で統計的に有意であることが示された。

- ・学校管理職に対し、現在勤務する学校に所属する派遣経験がある教師について、派遣経験のない同年代の教師と比較してどの程度あてはまるか尋ねた結果を集計した。

資質・能力向上

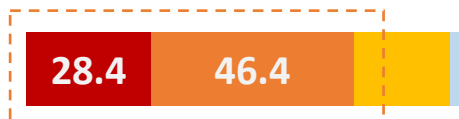
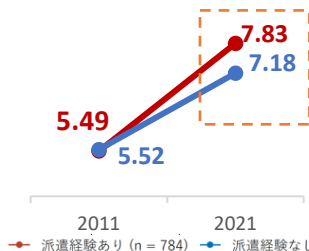
2 カリキュラム・マネジメント能力

日本のカリキュラムと現地ならではの特性をアレンジした授業づくりの経験や、全国各地の派遣教師や多様なバックグラウンドを持つ子供達との交流は、カリキュラム・マネジメント能力の伸びに繋がります。

児童生徒や地域の実態を踏まえつつ、育成すべき資質・能力を念頭に置いた指導計画を作成し、効果的な指導を行うことができる

・教師本人へのアンケート

・学校管理職へのアンケート



■ よくあてはまる ■ まああてはまる
■ 変わらない ■ あまりあてはまらない
■ あてはまらない

資質・能力向上

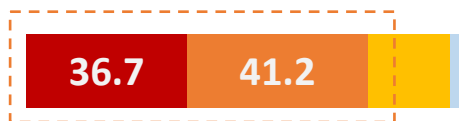
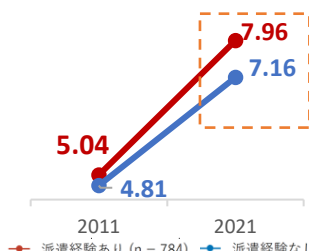
3 学校の管理・運営能力

現地ならではの経験や、若い年齢から学校の中心となって働く経験は、学校の管理・運営能力の伸びに繋がります。将来の管理職としての業務にも生きます。

学校組織における中心的な役割を担うとともに、教員の指導力・対応力の向上に対して適切に指導・助言を行うことができる

・教師本人へのアンケート

・学校管理職へのアンケート



■ よくあてはまる ■ まああてはまる
■ 変わらない ■ あまりあてはまらない
■ あてはまらない

異国の地で学校運営の当事者となり課題を解決したことは、教師としての視座を高める貴重な経験となりました！

- ・赴任当時の学校課題の一つは、ICT化の遅れ。香港のICT先進校の視察や、国内の教育委員会等とも連携して情報収集を行うなど、子供たちの学習環境の整備に向き合いました。
- ・デモの過激化、新型コロナなどの困難に直面しても、職員間で合意形成を図り、子供たちの学びの継続と安全・安心な学校づくりにチームで取り組みました。



田中泰貴先生（派遣：香港日本人学校香港校 令和2年度帰国）